

令和2年1月28日

申込希望各社 様

県立五泉高等学校長  
横堀 真弓  
修学旅行事業委託  
グローバル審査委員会

令和3年度2年生修学旅行委託仕様書等に係る質問について

このことについて、下記のとおり回答します。

記

(質問1) 旅行予算¥125,000以内/人 にはパスポート取得費用は含まずと考えてよろしいでしょうか。

(回答) 旅行予算¥125,000以内/人 にはパスポート取得費用は含まずに考えてください。

(質問2) 本修学旅行において、近年話題になっている各メディアにも掲載されているSDGs(持続可能な開発目標)についてはどのようにお考えでしょうか。

(回答) 仕様書の6. 旅行企画についての(1)①、②、③が達成可能であれば、特に拘っていません。現地での交流体験や体験学習、見学等がSDGs(持続可能な開発目標)を取り入れたものになるのであれば、より充実した修学旅行になると考えます。

(質問3) 移動・交通手段について  
出発から帰着まで生徒全員で移動するとありますが、航空機の料金・時間帯・座席数の関係で、二分割での移動は可能でしょうか。

(回答) 「生徒全員での移動する」ことで、生徒に対して同一の旅行内容、指導、安全対策を提供できることがメリットとして考えられます。しかし、予算内での実施、修学旅行参加者のストレス軽減、時間の有効活用など、さらに多少の時間差や施設等の受け入れ人数等を考慮することで、安心して安全な修学旅行が可能であるならば、分割での移動もあると考えます。

(質問4) 台湾文化講演会はどのような内容をご希望でしょうか。

(回答) 台湾という「異文化」に触れる事前学習として位置づけているため、当校に講師を招いていただき、講演会を実施してもらいたいと考えます。現地に行く前に知っておくことで、実際に触れる台湾の文化・民族・歴史・言語などについて学習できたら良いと考えます。教科書や観光雑誌等では知ることのできないような現地の様子を絵や写真、資料などを通じて、生徒が理解することのできる講演会をお願いしたいと考えます。

(質問5) 現地において、生徒に何を体験させ、何を学ばせてあげたいですか。一番重要視されることは何ですか。

(回答) 仕様書の5. 研修内容及び6. 旅行企画についてのとおりです。特に交流体験をさせたいと考えます。形態は、学校交流、文化交流、班別交流など、さまざま考えられると思います。現地の人々との交流を通じて、国際感覚や友好の精神を育てたいと考えます。また、生きた外国語に触れ、これまでの語学力の再確認と旅行後の語学学習の動機付けにしたいと考えます。さらに、異国の文化、歴史遺産に触れることで、日本との関係性を再確認し、台湾に対する関心と理解を深めるとともに、豊かな感受性を育てたいと考えます。

(質問6) 安全対策において、一番重要視されていることは何ですか。

※【例】 現地に支店があるか、など

(回答) 現地でのけがや病気、不測の事態に対する緊急対応がスムーズで確実なことだと考えます。出発から帰着まで、随員スタッフ並びに現地スタッフまたは現地コーディネーターが、常に修学旅行参加者の安全確保に努めることはもちろんのこと、行く先々の情報収集と提供、助言や支援が滞ることがないことが重要だと考えます。

(質問7) 班別研修を行う場合、1班何名を想定されますか。

(回答) 研修の内容にもよりますが、5名から8名程度を考えています。

(質問8) ヒアリング当日は、PCのみ持参でよろしいでしょうか。

(回答) ヒアリング当日に PC を使用する場合はご持参ください。また、後日、「ヒアリングについて」の文書を発送し、お知らせします。